

□第6回 伊賀市の賑わい創出検討協議会 議事録

日時：平成28年3月7日(月) 13:30～

場所：伊賀市役所第1委員会室

1. あいさつ

尾登部長

※開会挨拶を行った。

田山会長

※会長挨拶を行った。

会議に入る前に、先日の新聞記事によると市長より「勇み足である」という発言があったようで、各委員はそれぞれの会の代表として来て頂いているので、皆さんが所属している会でも話に出たかも知れない。その件についてこの協議会の委員でもある副市長より一言話をしたいと言う事で、辻上委員お願いします。

辻上委員

第4回検討協議会で具体的なエリアと機能配置を議論し、あわせて新築か既存施設を使うのかも議論した。翌日の新聞で、それが大きく報道された時には、「現庁舎を解体」と大きな見出しで出てきたこともあり、市長が心配して次の日の記者会見で申しあげたことがさらに新聞に載ったという経緯がある。

元々、検討協議会とは伊賀市全体の賑わいを創出するために、上野の市街地でどのような機能をどこに配置するか、具体的な提案をまとめることを目的に始まったことである。

あくまでも機能の配置を中心に議論してほしいということでスタートしたことなので、それをしっかり詰めて欲しいということである。

検討の中には、例えば建物を新たに造るという市議会の案も含めて協議することになっていた。色々なことを含めて議論して頂きたいことには変わらない。ただし、建物云々は、より専門的な観点から詰めていかなければならず、早々に結論は出しづらいということもあるので、できたら配置する機能の案について具体的に議論して、まとめて頂きたい。

田山会長

当協議会は、将来に向けた伊賀市のグランドデザインをまとめるのが第一の使命であるので、引き続き協議を進めていきたい。

奥委員

ちょっとよろしいですか。新聞で報道された件について、副市長からの話があったが、我々が過去5回に渡って協議してきたのは何なのか。馬鹿にされているような言い方で、私自身としては腹立たしい。大山田でいろいろな話を聞いていると、今日は最終回と言う事で思い切り言ってきて欲しいという声が大半であった。

田山会長

直接聞いたわけではなく、間接的にメディアを通してワンクッション入っているので、どこまでが事実かは分からないが、大体の主旨は副市長の話の通りご理解頂きたい。

また、時間が限られているので、パブリックコメント等では時間があれば検討しておくべき他の施設についてのご意見も沢山頂いているが、そこまで手が回っていない。これはグランドデザインの中核の施設の方向性が決まってから、その流れの中で考えられていこう。この協議会の後は専門家委員会の様な会議で方向性を定めて、その上で、最終的に総合的なグランドデザインになると思う。

今日の段階ではあくまでも中核となる施設のイメージがまとまれば良いのではないかなと思うので、そういう事で進めさせて頂きたい。

尾登部長

※会議が成立している旨および会議の公開、録音について確認を行った。

2. 報告・確認事項

尾登部長

議事進行は会長をお願いします。

田山会長

前回第5回の議事録について、事前にお届けして事前に読んで頂いていると思うが、訂正、ご意見等あればお願いします。

高倉委員

私の発言の所も含めて大体のポイントは押さえて頂いているが、おそらく聞き間違いと思われる内容がある。大きな修正ではないので後ほど事務局に指摘したい。

田山会長

他の委員の方は高倉委員の話を通じて直接お聞きになっているので誤解はないと思うが、事務局の用意した議事録に一部修正があるということなので、その点をお願いします。

他に宜しいでしょうか。

資料2のパブリックコメント結果から資料6の要望書まで事前に送付しており、協議事項の内容にあるので協議していきたい。

3. 協議事項

田山会長

それでは、協議事項に入りたい。

まず、様々な意見に対する対応として、2月5日から3月4日まで実施したパブリックコメントに寄せられた意見、2回開催した住民説明会の意見、住民説明会については、1回目に副会長に出席して頂いたが、2回目は会長も副会長も不在だったのでご批判を浴びた。私が参加しなければならなかったのかは今でも良く分かっていないが、他の委

員の方も参加して頂き、その方が代表してお答え頂いたと思う。その点で配慮が足りないという事であれば、ここでご指摘頂きたいと思うが、あくまでも事務局が対応して頂くものだと思っていた。

それから、協議会に寄せられた意見、要望書が事前に配られ目を通して頂いたと思う。これらの意見をグランドデザインにどう反映するかを議論し、最終のグランドデザインとしたい。

堀課長

※資料2に基づいてパブリックコメントの最終結果について報告した。

※資料7に基づいてグランドデザイン案について説明した。

田山会長

ありがとうございます。

説明だけで分かりにくい点もあるかも知れないが、3ページから9ページまでがグランドデザインの概要で、10ページ以降が補足の説明資料である。目的と位置づけはこれまで充分やってきたので今日は割愛したいが、確認を兼ねて意見を賜りたい。

まず3ページにはグランドデザインの方針が書かれており、我々がいるこの場所を核とすることを確認したい。また、現伊賀市庁舎地と現図書館地やその隣接地についての必要な機能と施設の扱いを書いている。このような事を賑わい創出グランドデザインの基本的な内容として示した。これは中間案の通りである。

4ページは現庁舎地周辺で、北側に1フロア2,000㎡の建物を3階建てまで建てることができる。パブリックコメント等では1階が図書館で、3階が観光施設になっている事に対する意見があったが、これは図上の表現の問題であり、実際のイメージとしては、1階が図書館は上の階に上がっていくための一部機能を設けて、中心は観光と情報発信になるだろう。一部の新聞には全てのフロアで合計2,000㎡という間違った記事があったが、正しくは1フロア2,000㎡で、合計では6,000㎡までの物が建てられる。そして確認だが図書館は3,000㎡を確保する必要があるので、面積的にはちょうど半分が図書館となる。これを3階建てにするか、2階建てにして1フロアの面積を広げるかは、建ぺい率、容積率の問題などもあるので、今後やっていくことになる。

また、駐車場は240台確保できる。そして、委員から平日は観光客が少ないという意見もあったが、平日には市民に利用して頂き、交流の場になる。また、夕方以降が寂しくなるという意見もあったが、開館時間のイメージとしては、夜9時頃まで図書館が開館して、賑わいを創り出すイメージである。

一方、観光機能としては、忍者はもちろん、芭蕉のPR施設も整備するが、芭蕉翁記念館については学術的なものが中心となるという事なので、集客力が劣るだろうという話が委員からあった。芭蕉の生誕の地としてのPR、芭蕉の学術的施設があるという案内を含めたイントロダクション施設はこの中に設けたいが、図書資料を展示する芭蕉翁記念館は近隣の施設にするという話だったと理解している。

あと、忍者関係については結論が出ていないが、桃青中跡地を忍者道場にするという意見が出ていたり、それから、現在のだんじり会館も含めた関連施設を有効利用していくことは今後の課題として、次のステージで考えていきたいが、コアの部分は街なかへ

誘導できる施設にしたい。あと、個人的な意見であるがトイレは立派なものを造って欲しいと思う。

また、南庁舎の保存を希望する意見が当協議会や市長宛に寄せられており、配付資料にも添付している。そういう意見があることは十分承知しており、今日も色々な資料が配られており、また、委員の中にも南庁舎を使うべきであるという意見もあるので、それは5ページの南庁舎を保存するイメージを、副案として当協議会として残すことにしたいので、ご理解頂きたい。ただし、副案の前提として、南庁舎を残すならばここに図書館を置くのはどうか、ここは観光施設中心ではないかという意見もあり、大きく2つに分かれていたので、ここではこれ以上触れないが、副案が正案になるのならば場合により、もう一度見直しが必要となる可能性がある。

それから現在の図書館について、6ページの①は現在の図書館の隣に芭蕉翁記念館を新築する案、次の7ページの②は現在の図書館を活用して芭蕉翁記念館にするイメージである。これについては、パブリックコメント等で、隣接する土地について、上野天満宮の了解を得ないまま協議会で決めている事に対する指摘があったが、この点についてご提案があった廣澤委員と相談したので、報告頂きたい。

廣澤委員

一昨日、菅原神社の一番核たる会議の中で話をし、ご使用頂くのは結構ですという事だった。土地を売るのか、貸すのかは別にして、ぜひ使ってほしいというご意見を頂戴した。

田山会長

ありがとうございます。そうすると、神社側からこのプランについてご賛同頂き、実現に向けて協力して頂くという理解で宜しいか。

それから、8ページはイメージとしてこうなるという他の事例を付けている。

次に、9ページは、今後ランドデザインを実現に向けて具体的に検討していく中で、どういう視点が必要かという内容をまとめている。また、ここには書いていないが、全国レベルのコンペティションを開いて、様々な方に参加してもらえるような手法を前向きに考えていきたいと思う。デザインのコンペをするまでに、我々の要望、市民の要望を問題提起しておいて、専門家に検討して頂く流れになると思う。

4. 質疑応答

田山会長

まとめについて私なりに述べたが、最終の取りまとめに入りたいので、これについて賛成の意見でも、反対の意見でも、各委員からご意見をいただきたい。パブリックコメントや住民の意見を読むと、パブリックコメントの場合には、どちらかと言えばマイナーな意見に対してこういう事があるのではないかという視点の意見が多いが、住民に集まってもらうような場の意見だと比較的賛成意見が多く、概ね中間案を肯定的に判断して頂いたのではないかと思う。

堀川委員

9 ページの実現に向けての「(1)計画の視点」について確認したい。第1期の中心市街地活性化基本計画では、三筋町や駅前を重点的な区域としてきたが、2期計画もそれを踏まえらると思う。そこの各施設への動線は、主な事項のどこで見ているのか教えて欲しい。

田山会長

堀川委員が欠席された回だったが、ゾーニングについて検討しており、考え方は14ページに書いてある。まちの玄関、買い物・コミュニティ、観光、文教、芭蕉などのゾーニングをしており、一部交錯する所もあるが、動線の流れに沿った整合性を保つことができ、中心市街地活性化の主旨にも合っていると思う。

この点について辻上委員から何か補足があればお願いします。

堀川委員

ゾーニングは理解しているが、どのように重点エリアに結びつけていくのか、その方向性を計画していくのか聞きたい。例えば、この南庁舎ならば、南庁舎の跡地利用だけでなく駅前や三筋町とどう繋ぐのか、これからランドデザインの中で検討していくのか。

田山会長

ランドデザインは字の通り基本中の基本の計画で、これをベースに考えていくという結論である。

堀川委員

その中に入っているのか。

田山会長

戦術論的な話はこれから決める事だが、戦略的はまちづくりの基本、骨格となるものである。

辻上委員

資料の15ページに将来のゾーニングの考え方が掲載されている。田山会長より14ページについて説明があったが、それを組み合わせるとこの様になり、重なるゾーンがある。特に、この市役所の跡地については、ここだけで完結するわけではなく、一旦ここに集まって、ここを核として周遊してもらうことが重要であると思うので、観光的な機能などを複合的に配置することが効果が高いと思う。

宮本委員

9ページについて市民から見ると、現施設の構造上の評価も必要だと思う。こういった事がしっかりと定められると具体的でいいが、改修など様々な意見が出ているので、建築の先生も委員に入っているのだから、構造について入れてもらおうと市民にとって分かりやすい。

田山会長

その点について浅野委員、意見があればお願いします。

浅野委員

パブリックコメントの回答として記述した一文を入れれば良いのではないか。ご指摘頂いた事は避けて通れない事なので、南庁舎や現図書館の改修等に関する建築的な調査について、今後やる事項に補足として記述して頂ければと思う。

田山会長

その点について補足をして頂ければと思う。

それから、視点を間違えないようにして欲しいのは、委員の総意を得ている話だと思うが、この委員会の前提として、行政が持っている建物を何とか活用したいと考えるのは分かるが、建物を中心に色々なことを考えていくのは多少無理がある。図書館のように耐震性があり、かつ、それなりの事業費をかけて建てた建物は、空き家のままにしておくのではなく、活用すれば良いが、もっと小さい施設や、建て替えが必要な施設については、そこにあるから何かしようという発想は良くないので、誤解の無いようにして頂きたい。あくまでもゾーニングをイメージしていく中で選んできた。従って、芭蕉翁記念館についても新築案を残しているのは、建物が展示にふさわしくない建物だとなった時に考えるためであり、多少改修するだけで済むのならばそうすれば良いと思う。

費用の試算についても超概略であるが、合併特例債を使う前提であるが、本案でも副案でも2億円以内の負担差になるので、長い目で見ればそれほど大きな差が無い。逆に庁舎を残す方が維持費がかからないと資料に書いてあるが、かかるかも知れないので、リスクもふまえると金額的に大きな差は無いと思う。

服部委員

東部地区の住民代表として、住民に広く意見を聞いたが、関心が少ないと感じた。先日の2回の説明会も参加者が少なかった。「どうでもいい」という訳ではないと思うが、今は転換期で重要な時期であるので、高齢者から若い人まで関心を持ってもらって、できてしまってからでは遅いので、後からこうしておけば良かったとならないように、市民全員が関心を持つ必要がある。

また、議会からも各地域の意見を出して下さいと言われたので、私の地区からも出したが、中でどういう議論があって、どういう結果になったのかという報告がどこにも出していない。ここで決めた内容を再検討して進んでいくのかも知れないが、そうなる就非常重要な協議会であるので、最後はそれなりの強いものがないといけない。

田山会長

新聞等の地方版で比較的に取り上げてもらっており、今日の会議も明日の記事に載ると思う。また、今日はケーブルテレビも来ているので、それなりに市民の関心もあると思うが、更に市民の関心を持ってもらえるようにしていきたいので、ご意見として承りたい。

他に、付記すべきこと、確認しておくべきことがあればお願いしたい。

高倉委員

パブリックコメントの結果を色々な意見があるのだと感じた。

今回の資料では4ページにイメージではあるが、各階のイメージが掲載されており、パブリックコメントに図書館を1階にする事に対する意見があったので、それを反映したのだと思う。検討委員会で取りまとめた図書館の基本計画の答申では、図書館建築のベーシックな視点から図書館を1階にする事が書かれており、図書館を造る際の常識的な考え方になっている。パブリックコメントの反映ではあるが、気になっている。

また、その前の3ページに必要な機能と規模の配置としてまとめてあるが、この会議の中では、確かに南庁舎の跡地に複合施設を整備するという事で意見が収斂された事は間違いない。ただし、最初のうちは図書館を中心とする複合施設という言葉だったが、複合施設だけにすると、その機能がぼやけてしまうのではないかと気になっている。

それから、9ページ「(1)計画の視点」の「②附属的な事項」の最後に「民間活力の積極的な活用」とあるが、この会議では、ここまで立ち入った議論はできていないのではないだろうか。また、図書館の場合、この会議でも2、3人の委員から、昨今の新しい図書館で問題がある施設として、具体的には武雄市の図書館、ツタヤの図書館の名前が挙げられたこともある。武雄市の図書館の問題はそれ以前からあったが、指定管理者制度を導入しており、まさしく民間活力の積極的な活用の一部ではあるが、図書館に指定管理者制度はどこまで有効で、どこに問題があるかが、かなり深刻な問題として、今議論されている。新図書館の基本計画でも、管理運営については直ちに結論を出さずに、一定の時間をかけて図書館協議会が明確な意見を提示するよう、とりまとめている。民間活力の積極的な活用という一文が入ることで、杞憂かも知れないが、議論の大きな枠組みに影響を与えるおそれがある。

田山会長

今の民間活力の活用は、PFIのイメージでニュアンスが少し違うと思う。橿原市が民間資金を使って市役所の建設費用を抑えるため、市役所の上にホテルを建てる様なやり方であるが、今後、観光施設を建てる時にそのような知恵が出てくるのではないかと、いう事を記述しているが、図書館そのものの運営に限定した訳ではなく、誤解を招く表現である。これはこれで議論したことであるので、表現を変更したいが宜しいか。

また、ご指摘があった図書館は1階でなければならないという意見は、専門家のご意見なので尊重しなければならないが、2,000㎡のうち何㎡を図書館に使うのかという事と、観光・交流スペースと図書館への入場するエリアを含めた計画を検討して頂く事になる。基本はバックヤードを含めた2階、3階を中心に使って頂くという事で、パブリックコメントで市民から意見があったのもそういう事だと思うので、入場の事も配慮して専門家委員会で検討して頂きたい。

それから、もう一つは南庁舎についてのご意見だと思うが。

高倉委員

南庁舎を残した場合でもいずれにしても複合施設になるが、3ページの(2)の表の「施設の扱い」に「北庁舎地に複合施設を新築」「南庁舎を改修し複合施設として活用」とある。この複合施設は漠然とした複合施設ではなく、議論していたのは図書館を中心とした複合施設なのではないかと思う。

田山会長

3ページの真ん中の表で「複合施設」は「図書館を中心とした複合施設」ではないかというのが高倉委員のご指摘であるが、私の記憶では意見が分かれたのではないかと思う。南庁舎を残すならばあの建物は図書館にするという意見があり、他にも南庁舎を残すならば図書館を他の場所に整備するという意見もあったと記憶している。そういう意見に配慮して図書館を抜いたのではないかと思うが、事務局の考えをお願いします。

堀課長

事務局としては、議論の中で図書館を中心とした複合施設という案もあったが、ここに必要な機能の中で施設を謳っているので、施設の扱いの部分での名言は避けている。

田山会長

私はこの表現でもいいのかと思うが、どうでしょうか。

辻上委員

どちらが主かというよりも、観光的なにぎわいの創出と日常的なにぎわいの創出の両方を加味して、複合的という意味でまとめ上げられている。

田山会長

現状のままということで宜しいか。

廣澤委員

関連だが、高倉委員から1階を図書館にという意見があったが、前の北庁舎では上野公園側から来ると入り口が2階だった。2階から入って下の階に体験施設があるよりは、観光施設と体験施設が並んでいる方が良い。南側の玄関から入ると1階なので図書館、観光は裏の方から入って2階にすると上手くつながるのではないか。

田山会長

忍者の町らしい素晴らしい案だと思う。敷地に傾斜があり、3m位の差があるのでちょうど1フロア分くらいの差になる。今後の検討課題になるが高低差も利用して上手く建物を考えて頂ければと思う。

中村副会長

高倉委員からご指摘があった民間活用について私がイメージしているのは、サービス機能を何でも直営でやる必要はないと思う。6,000 m²という限られたスペースなので何を入れるかはこれからの議論であるが、以前も申した通り私はショッピングセンターの

経営をしてきたが、にぎわい創出はショッピングセンターの様にできるだけテナントを入れれば良いのではないか。ハイトピアはもったいないと感じているが、休憩したり飲食、物販などは民間に任せてサービスをしてもらえば良いと思っている。図書館の経営を民間に任せる云々ではないと思う。

高倉委員

民間が入るのは図書館の運営管理ではないという事が分かる様な表現にしてもらえればと思う。

田山会長

民間活力の活用については、今の中村副会長のニュアンスも含めた記述を事務局で検討して頂きたい。

高倉委員

仰ることは良く分かった。図書館については、PFI、指定管理はどうするかなど、どういう運営方針をとるのかは、今、深刻な議論になっているので、安直に結論を出さずに次の然るべき委員会で協議して頂く事が重要だと思う。

田山会長

専門の立場からアドバイスを頂いたので、事務局でも今の話を参考にして頂きたい。遅れて図書館を造ることになるので、全国の先進事例を参考にして頂ければと思う。また、地域特性を活かして芭蕉や忍術に関わる蔵書も当然置くべきで、外の方にも観光のついでに見て頂けるような図書館であって欲しい。これは委員の総意だと思う。

では、次に西田委員、芭蕉翁記念館に対する思いを語って頂きたい。

西田委員

せっかくまとめて頂いた物を蒸し返す様で申し訳ないと思ひ発言を控えていたが、我々ははじめ記念館を造って頂くのは現庁舎の跡地ということ強く主張してきた。それが図書館の改修あるいは後ろに新築という話が出て、そういう案もあるのかと感じ、持ち帰って相談したが、庁舎跡は図書館ありきで芭蕉翁記念館がどこかへ消えてしまったと心配があった。蒸し返す様だが、我々の会としては本当は庁舎跡に建てて欲しいと思っている。

前回は議論があったが記念館は専門的で集客力が無いと結論になったようだが、現記念館は古く、スペース的に言っても沢山の方に見て頂くことができない状態だが、喜んでもらえるような内容を充実することで一般の来客も増えると思う。記念館全てが専門的、学術的なものでなければならぬ訳ではないので、一部は専門的な展示を残しつつ、一般の観光客や市民が利用できるように、一部には複合的な施設も造れば集客力があり喜んでもらえるのではないか。

図書館の経営についてニュースで聞いたが、ある市で図書館を30億円で建てたが、維持するのに3億円かかるということだった。3億円が市の税金ならば市民の負担になり、

同じ負担をするのであれば、記念館は集客力のある施設ではなく市民に負担をかける事は避けたいので、あまり大きな施設を要望してこなかった。

逆の発想で、市民は芭蕉の事を良く認知しているはずなのに、いざとなると関心が薄く、なぜかと考えると、自分に直接響いてくるものと記念館は別のところで動いており、自分には関係ないと思っているのだろう。記念館を運営するにはお金がかかるので、市民に「我々が支えているのだ」という意識を持ってもらうためには、ある程度税金をつぎ込んででも市民の関心を惹きたい。そういう方向性を持ってやっていたら、庁舎跡に芭蕉翁記念館を建てても充分やっていけるのではないか。

田山会長

今の西田委員の意見について何か意見のある方はお願いします。

風呂矢委員

この協議会に出席して、芭蕉の偉大さ、芭蕉は大切にしていけないと感じた。

私の家の近くには蓑虫庵もあり、服部土芳さんも有名であるが、他にも4つ庵があったが1つだけ残っている。芭蕉に関するものをどう保存していくか、全国的に伊賀の地や芭蕉の名前を発信し残していくかが大切である。観光と集客力、顕彰の関係は難しい面があり、人を集めるのか、お金儲けをするのか、あるいは粛々と顕彰するのか、それぞれ考え方がある。

この協議会ではどのように人を集め、にぎわいを創出するかという事を議論しているので、複合施設の中で忍者や芭蕉にする誘いをするブースを造って、ある程度の予備知識を得てから、もっと詳しく知りたい人にはどこどこへ行きなさいと方向付けるのがベストではないかと思う。

田山会長

ありがとうございました。

もう少し意見があれば賜りたいので、お願いします。

前川委員

西田委員より芭蕉に関心がないのではという意見もあったが、私たちの地区では芭蕉について特に関心を持っている。一概に関心が無いとは言えないのではないかと思う。

別の話だが、ランドデザインの市民に対する説明会は、この協議会が主催したのか。

尾登部長

最終的に市へ答申をして頂く予定だが、それがまだないので協議会が主催した。

前川委員

私たちの地区では主催者は市がやっているのか、協議会がやっているのかという話が出た。私も1日だけだが出席したが、郡部からも沢山来ており、色々意見を出していた。1日目は会長の代わりに中村副会長が参加されていたが、2日目は八尾委員が代わりに出られたと聞いている。会長、副会長が出て頂いた方が良いのではないか。

それから、私は郡部の者だが、賑わいは日々ここに人を集めるのが当然だと思うが、そうなれば、初めは2,000 m²と聞いていたが、6,000 m²の施設ができるなら、ここに新築して、スペースには限りがあるが、複合施設を建てたら良いのではないか。

服部委員

芭蕉翁顕彰員会の評議会があったが、近々指定管理者から離れ、直営になると聞いたが、理事や評議員はどうなるのだろうか。少なくとも顕彰会は残さなければならない。

そうすると会長をはじめとする役員の思いを採り入れないと全国発信できない。いがまちの人も、最初は伊賀か上野かで話をして、どちらでも良いと思うが、その様なこともあり、全国にも、世界にも誇れるような芭蕉の生誕地として、それなりに全体で盛り上げていく機運を高めていかないと、ただありきたりな記念館だと物足りない気がする。なので、協議会でも将来を含めて考えて頂きたい。

田山会長

西田委員のご意見についてもう一度戻りたい。

高倉委員

芭蕉翁記念館に対する思いがよく伝わってくる。最初から言っているが、伊賀市にとってとても大事な施設である。

そこで、現段階で考えなければならない一つの問題としてあるのは、芭蕉翁記念館と図書館が2項対立の状況になりがちなことである。

芭蕉翁記念館は施設が老朽化しており、入館者数が少なくなることは仕方の無いことである。その他様々な現状があるが、それを打破するために今、一番有効な手立ては、図書館と対立させるのではなく図書館と連携することが一番大事である。そして、図書館の果たす機能がどれだけ大きくなっても、芭蕉翁記念館に代わることはできず、芭蕉翁記念館は芭蕉翁記念館として大事な物であり、とても図書館は代わりにならない。だからこそ、図書館の機能を使いながら芭蕉翁記念館をもっと盛り立て、そういう形で芭蕉翁記念館への人の流れを作る。その連携こそがまずは大事であり、今までは別の施設として別々に動いていたので、そうした状況が期待されている。

それから、少し誤解を招く表現かもしれないが、芭蕉翁記念館が単なるアカデミズムを目指すならそれでいいとはならない。そういう側面ももちろん持っており、それはなぜかと言うと、芭蕉翁記念館には江戸時代の芭蕉の門人や芭蕉自身の自筆の資料が残っており、これは図書館にも他のどんな文化施設にも存在しないのでとても大事な物である。これを伝えること、そして、これを残していくこと、その本物の魅力、オリジナルの魅力は図書館のように活字を中心にする施設ではとても持ち得ない。しかし、本物の良さが上手く伝わっていない所もあるので、それを上手く伝えるために図書館の機能を活用することで、多くの市民も観光客も図書館から芭蕉翁記念館への流れができ、また、芭蕉翁記念館の魅力を発見あるいは再発見していくことになる。

そういう視点で芭蕉翁記念館は図書館を見て頂きたいし、図書館もまた、芭蕉翁記念館の積極的なサポートができる。これは元々、伊賀市の図書館のコンセプトであり、文化や観光に積極的に図書館が関わっていこうという考え方なので、それができなければ、

ここで議論してきた図書館にはならない。まさしく、そうした役割を図書館が持ち、そうすることによって、芭蕉翁記念館もまた、より多くの人に知ってもらい、本物の良さを分かってもらえる。しかし、それはなかなか簡単なことでないからこそ、芭蕉翁記念館が単独で活動するよりも、図書館と協力することによって、上手く魅力を発信できる。

芭蕉翁記念館がレプリカやデジタル資料ばかりを展示するならば、芭蕉翁記念館でなくてもできる。芭蕉翁記念館にしかできないこと、芭蕉翁記念館の本当の魅力は何なのかをしっかりと抑えた上でその魅力を発信する、そのために図書館と協力するという形が、私は理想的なものだと思う。

田山会長

そうすると、先ほど風呂矢委員が仰ったように、図書館を含めて芭蕉のイントロダクションができる施設があれば充分、芭蕉翁記念館に誘導していけるだろうから南庁舎跡地でなくても良いだろうというご意見である。風呂矢委員のご意見も同様である。

この議論が2、3回行われて、賑わい創出の観点から見ると低いのが、皆に芭蕉を知ってもらうためには、中心市街地に必要であるというご意見があったが、南庁舎の場所ではないが、次の核になるエリアに持ってこようかという事で各委員にご賛同頂いた。思いは充分聞いており、会議所の会頭からも配慮するようにと聞いている。

西田委員

我々は元々図書館と対立する気はない。少し形が違うが、蔵書、展示など機能的には良く似た事をやっている。例えば、上野出身の人が「お前の所には何があるのか」と聞かれた時に、立派な芭蕉翁記念館があると堂々と答えられるような、シンボリックな建物が欲しいというのが第一である。

田山会長

俳聖殿はどうか。

芭蕉にちなんだ建物である。

西田委員

やはり建物として、大きな物でなくても、各地に芭蕉のいたところである記念館に増して立派でシンボリックな記念館があれば、全国的なアピールができると思う。

柘植委員

高倉委員に図書館の件で質問したい。

私は図書館を利用しないので、図書館のことはわからないが、地区外から来る観光客が伊賀市の図書館を利用することが期待できるのか。

高倉委員

今、まさにそういう図書館が求められており、他都市の図書館もそういう図書館になって、新しい歩みを始めている図書館が沢山ある。そして、そういう図書館が図書館情報学でも注目される存在になっている。

それを伊賀市に置き換えた場合、伊賀市に来て色々なところを巡るのであれば、外から来た人がまずは図書館に行ってもらえるような図書館にして欲しい。古いイメージの図書館、新しいイメージの図書館という言葉が今まで何度か出たが、古いイメージの図書館のままでは駄目である。

それから、芭蕉の言葉に「不易流行」という言葉があるが、図書館は図書館としての本質的な、大事な「不易」の部分と、時代やその時代の好みに合わせて対応していける「流行」の部分、新しい伊賀市の図書館は、この2つを持ち合わせた図書館になってもらいたいと思う。

柘植委員

私の感覚では、市民は利用できるだろうが、市外の人、あるいは一生に一度しか来ない様な人に図書館を開放して本を貸し出せるのかと思うが、それはどうなのか。

高倉委員

本を貸し出すだけの図書館の時代は終わり、これからは情報を提供するという時代になっている。図書館が本を貸し出すことはとても大事な役割でこれは変わらないが、それだけでは古い図書館である。そうではなく、多くの人々が求めている情報を提供する「レファレンスサービス」が今の図書館の役割として大きな比重を持ち始めている。それからもう一つ、「レフェラルサービス」という、他の施設と仲介をする役割があり、これもまた現在の図書館に不可欠なものとなっている。

図書館が持っているこういう機能や能力をフルに発揮することが非常に大事なことである。

柘植委員

情報提供と言うことだが、今の時代はパソコンを叩けば即、色々な情報が入ってくるのではないかと。

高倉委員

情報と言っても様々な情報がある。実際に伊賀を巡りたいと思う人は、予めパソコンで色々な情報を集めてから、伊賀へ行ってみたいとなるが、それだけではなく、もっと中身があり、地元の図書館だからこそできる情報サービスが、こういう時代だからこそ求められている。パソコンで入手できる情報より、もっと質が高く、もっと多くの人達に有効な情報が必要である。先ほどレファレンスサービスと言ったが、図書館では「レファレンスインタビュー」という事をやる。レファレンスインタビューは、相手が小学生の場合、高校生や大学生の場合、高齢者の場合で、同じ質問があったとしても、求めている情報が大きく違う。そうしたきめの細かい情報提供が外からやってきた観光を主眼とする方々にも求められている。ひと味違ったそういう情報があるからこそ、伊賀の文化、観光を下支えし、底上げする役割を持っている。

柘植委員

分かりました。

奥委員

高倉委員に聞きたいが、伊賀市の周辺でそういう図書館を造って成功しているところはあるのか。もし、あるならばその人口は何人ぐらいか。面積が狭くて人口が多い都市と、伊賀市の様に 558 km²に 9 万人ぐらいしかいない都市で条件が違う。高倉委員の話は分かるが、我々にはついて行けないところがあるので、近隣にそういう図書館があれば、図書館はこんなに良くなるのだと一回見に行きたい。今日は最終回なのでもう遅いが、住民自治協議会でも視察に行きたいので教えて欲しい。

高倉委員

時間が無いので簡単に結論だけ、近いところだと岐阜県高山市の煥章館や長野県の小布施町の図書館が有名である。見学に行かれば良いと思う。小布施は人口規模は伊賀市よりも少ないと思う。図書館ではなく「まちとしょテラソ」という名前が付いている。

田山会長

飛騨古川は高山の近くで、1 万か 2 万人くらいの小さな都市だと思う。小布施も行ったことがあるが、町を挙げて観光をやっており、きれいな所である。

芭蕉翁記念館については、西田委員から最後ということでもう一度ご意見があった。前回は議論したが、その時の結論としては図書館機能と観光機能の中で芭蕉のイントロダクションをふまえて、記念館へ誘導できるような形をとれば賑わい創出の観点から考えたい。実際に 6,000 m²の図面を作成すれば、実際にもう少し芭蕉のスペースがとれるという話が出てくるかも知れないが、それはその中で検討して頂き、現時点では本案、副案という形でまとめさせて頂きたい。

八尾委員

中心市街地の西部地区の八尾です。6 回に渡り中心市街地の賑わいについて考えて頂きありがとうございます。これらを手本に我々の住民が頑張って豊かなまちづくりに向かって発信していきたいので、今後ともよろしくお願いします。

田山会長

中心市街地が活性化すれば周辺地域に波及していくが、ここが起爆剤になる事は明らかなので、是非とも成功して欲しいと思う。近隣の自治会もご賛同頂いていると思うので、八尾委員の地区でも是非ネジを巻いて頑張ってもらいたい。

それから先ほど、前川委員からご指摘いただいた件については私も認識不足であった。それでは浅野委員をお願いします。

浅野委員

計画書を今日初めて拝見したが、体裁についていくつかある。

まず、1 ページの目的がややアバウトなので、もう少し記述した方が良いと思う。今回は民間施設が対象外なので、中心市街地の公共施設を対象にどういう視点からという一文を書いた方がより正確でいい。事務局で検討して頂ければと思う。

それから、その下の図があり、これは仮のレイアウトなのだと思うが、見にくいのでクリアな図にする必要がある。また、この図に半径 500m と 1 km の円が描いてあるが、括弧の所は外して、500m と 1,000m と素直に書いて良いと思う。

次に、4 ページ以降の図面について、3 ページに考え方が触れられているが、図中に例えば 420 m²などと面積が書かれている。今後、建築的に専門的な議論をしていく必要があるので、例えば 400 m²など、大まかに 50 m²や 100 m²単位で記述して頂いた方が良い。420 m²と書くと建築的に詳しく検討している様な印象を与えてしまい、根拠を求められたときに回答しにくいのではないかな。

それから最後に、直接ランドデザインの検討とは関係ないが、参考資料として「日経アーキテクチャー」の最新号の京都会館の記事が配られている。京都会館は坂倉準三の兄貴分にあたる前川國男という有名な近代建築家の設計で、ここもずっと保存と開発について議論してきた。表面の汚れた部分も洗浄して、新京都会館が「ロームシアター京都」と命名されてリニューアルオープンした事が紹介されている。参考に見て頂ければと思うが、近年の建築の技術は新築と同等の性能にする事が可能なので、今後議論する際には、もう少し建築的なしっかりした議論をして頂ければと思う。

田山会長

時間もあまりないが、最後に若い上田功委員の意見を聞いてまとめたいと思う。総論的で良いのでご意見や他の委員に何か話したいことを述べて頂ければと思う。

上田功委員

会長からは当初、金額の事を考え出すと前に進まなくなるという話があったが、若い人とこの件の話をすると、出てくるのは税金が上がるのかなどという話で、お金の事は非常に大きな点かと思う。これは今後個々に検討していくべき事だと思うが、図書館の場合も、本来必要であるべき図書館としての機能が担保されていることが大前提で、規模があまりにも大きくなりすぎると、私たちの子や孫が維持管理の負担をする事になるので、コスト計算をした上で極力コンパクトで、できる限り費用がかからない物が良いのではないかなと思う。

ランドデザインについてはイメージ通りである。

田山会長

費用試算は前回事務局から提示頂いた物を見ていると思うが、南庁舎を残してもそれほど大きな差は無く、全体額も社会投資としては十分な金額で、無茶なものではないと思う。今まで投資がなかったもので、図書館も競争力を高め、まちの魅力を上げなければいけない先行投資なので、若い方にもご理解頂きたい。

奥委員

この丸之内 116 番地についてどうするかという事で、議会は取り壊すべき、住民自治協議会のアンケートも大半が取り壊すべき、我々検討協議会も主案としては取り壊して新しいものを建てる事になったが、平成 28 年度の予算で、まだ本会議が始まっていないので証拠はないが、庁舎を洗浄するとか、何千万をかけてどこかを舗装するという予算

が挙がってくると聞いている。何を考えてしているのかよく分からないが、行政としてそういう声をふまえて慎重に対処して頂きたい。

田山会長

本日議論した内容を加味して最終成果としたいが、修正については私と中村副会長で対応させて頂きたいが、了解頂けるか。

委員

※了承された。

田山会長

それでは次に、市長と面談して、当協議会の報告としたいが、事務局から市長へ報告する日についてお願いします。

堀課長

市長への報告については、会長をはじめご都合がつく委員の方は全員に出席して頂きたい。3月22日（火）10時から1時間程度、秘書課応接室にて行う予定である。

田山会長

ご都合がつく方は参加をお願いしたい。当日10分くらい前に来て頂ければと思う。私と中村副会長、廣澤委員は出席させて頂く。副市長も同席されるということで良いか。

5. その他

田山会長

最後に事務局からその他事項はありますか。

堀課長

その他はないが、最後なので傍聴の方からご意見を頂けないことを会長から確認頂きたい。

田山会長

最終回になり今まで充分ご意見を頂いたが、何度も傍聴頂きありがとうございました。

11月から議論して頂きありがとうございました。今日の趣旨に沿って22日に市長へ答申したい。このまちの賑わいを取り戻して、歴史を大事にするような素晴らしい未来都市になればと思う。

当初この会議が始まった時には、3月末までにとにかくまとめて欲しいというのが各委員への就任時の要請だったと思う。なので、拙速云々を言われる筋合いはなく、限られた時間の中でやってきた。今年いっぱいまで時間があればやり方は違い、もっと議論できたが、3月までという前提で皆様にご協力頂いて方向性の大まかなところを取りまとめることができた。中にはご異論がある委員がいることも十分承知しているので、それを踏まえて合わせて報告させて頂きたい。

20人の大人が集まって、皆さん論客なのでこの辺まで出かかっていることもあったと思うが、紳士的態度で接して頂いて6回でまとめることができた。不東な会長であったがご協力頂いたことをこの場を借りて御礼申し上げます。

ありがとうございました。

(以上)